
優しい魔王の疲れる日々

n

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

優しい魔王の疲れる日々

【Nコード】

N1527X

【作者名】

n

【あらすじ】

望月鏑鶴、中学三年生。見た目は背の高いイケメン？しかし魔王。超横暴母と秋葉原の神と称される父を持ちその父母にも引けをとらない姉6人と妹7人を抱えている。基本ヘタレで駄目っぽく見えるがやる時はやる男の子。そんな若干不幸？女たらし？で若干リア充？の主人公が色んな人と分かり合ったり。熱血したり。ラブコメその他もろもろな物語・・・

第1話：魔王の朝（前書き）

nと申します。初めて小説書かせていただきます。誤字脱字あるかもしれません。僕の小説で笑ってくれたり楽しんでくれたりしてくれたり幸いです。

第1話：魔王の朝

魔王兼、一応主人公、望月鑄鶴の朝、それは四時から始まる。

「早くお弁当作らないと・・・みんな起きちゃう」

まずはお弁当作り、彼の朝はここから始まる。

なぜ四時からというと、彼の家族は8女1男の9人姉弟、父母をあわせれば11人となる。

しかし、母と父は仕事が多いため中々帰ってこないのだ・・・
そして姉妹達は家事をしないだから彼が仕方なく家事をしているのだ。

次に昨日の夕飯の食器洗い、洗濯、朝食作りを進める。

そしてどうこうしてるうちに朝の7時、姉妹達が朝ご飯を食べに来る。

「恐子姉おはよう」

「おはよ・・・」

一番最初に起きてきたのは長女の恐子さん。

彼女は元ヤンの総長です」

現在26歳ファミレスの店長をしています。

朝起きたばかりの目付きでも一般人には睨んでる様にしか見えません。

「飯はできてるかな？」

「杏奈姉、おはよう」

このいかにもガリ勉なメガネは次女の杏奈さん彼氏居ない歴25年
弁護士なのに彼氏もできないとは・・・ある意味可哀想な人です。

「ああ・・・眠・・・」

「鶴君おはようございます」

「穂詰姉、梓姉おはよう」

ああ・・・眠い・・・とか言ってるのは三女の穂詰さん、昨日のお酒が残っているそうです。しかし！

ただの飲んだくれかと思いきやきちんとした保健の先生なのです。こんな人でも教師・・・日本はどうなるんでしょうか・・・そんな彼女の横にいる優しそうなお姉さん。

彼女は五女の梓さん、20歳にして望月家で一番頭がいい人です。現在は夏休みでアメリカのある大学から帰ってきています。

「お姉ちゃん！起きなきゃダメだよ！朝ご飯冷めちゃうよ・・・」
「後五分・・・後五分・・・」

急いで支度しているのは末っ子八女の神奈ちゃん、七人姉妹の中では1・2を争うぐらいの鑄鶴君を愛しています♪

家族としてですよ・・・？

「お兄ちゃん！お兄ちゃん！見て見て！」

「ん？」

「私のこの手が光って唸る！みそ汁投げると！輝き叫ぶ！」

「ゆりみそ汁投げフィンガー！」

「えっ！？みそ汁！？」

今、鑄鶴君に意味不明などこそそのアニメの技みたいのを叫んでるのは七女のゆりさんです。彼女はギターとアニメやゲームが大好き♪

望月家一番の元気っ子です。

あらら・・・鑄鶴君はみそ汁まみれ、それを尻目にゆりさんはご飯にガッツいてます。

味噌汁の着いた服を洗濯機に入れてきた鑄鶴君、すると？

「ふっ！なら私は結フィンガー！」

「うべふっ！」

思いつきり吹っ飛ばされる主人公こんなのが主人公ですいませんねえ。

いきなり鑄鶴君をなんとかフィンガー！とか言って吹っ飛ばしたのは、

六女の結さん、高校生とは思えんダイナマイトボディ・・・
なんともけしからん・・・彼女は剣道女子で去年の高校二年生の時、全日本女子高生剣道大会でみごと全国優勝をなしたげたものすごい

人です。

しかし・・・ブラコンと言う欠点がありますはい・・・そりゃあすごいですよ？はい・・・

そんな事からいつぺん結さんは倒れた鑄鶴君を見て・・・

「つくくんごめんね・・・？痛かったよね・・・？大丈夫・・・？」
ギョツと鑄鶴君を抱きしめてあげています。

「いつ！息が！死ぬ！死ぬ！」

鼻血ぶっぱなしながら悶え苦しむ鑄鶴君・・・結さんは気づいていません・・・

別に羨ましいとか、リア充爆発しろおおお！とか思ってますからね？

ホントですヨ・・・？

そんなこんなで朝っぱらから死にかけてる主人公の鑄鶴君。

本当に爆発すればいいのに・・・と思わず！

我等が主人公鑄鶴君は復活するのか！

復活しなきゃ続きません！

以上空の声でした♪

第1話：魔王の朝（後書き）

優しい魔王の疲れる日々第一話いかがだったでしょうか・・・？感想などがもらえたら嬉しいなと思っています。第二話は現在作成中です！皆さんもどうかこのリア充・・・じゃなかった！鏑鶴君を応援してあげてください！

第2話：魔王の登校（前書き）

全話で話した通りまあお人好しな魔王兼主人公望月鑄鶴君、そんな彼は登校でも・・・

第2話：魔王の登校

「ふう〜・・・やつと片付いた〜そろそろ学校に行かなくちゃな・・・」

朝から色んな意味で大変だった鑄鶴君、今から学校に行くところです。

今日も普通に学校に向かおうとしていると、

「おっす！鑄鶴！また鼻血ぶっぱなしたか？どうせまたいつものなんだろう？」

この赤髪で見た目がヤンキーそうな子は赤神松人君これでも彼女が居ます、

一見はヤンキーですが中身はとても素晴らしい男の中の男なのです。

「松人・・・鑄鶴は悪くない・・・多分姉妹達に色々されたんだろう・・・なんと羨ましい・・・」

「どっ！どうせまたえっちい事をしたのだろう！」

松人君の隣に居る背が低く影の薄そうな子は土村影人君、この影の薄さを利用して様々な中学生ばなれした行動をするのですがその行動はまた今度紹介しましょう」

そして後ろから鑄鶴君を顔を赤くしながら罵倒しているポニーテールは鑄鶴君の隣の家に住んでいるいわゆる幼なじみ三河歩さんです。顔を赤くしながら怒るとは、実に可愛いですはい」

そして歩さんに怒られている鑄鶴君、羨ましいような、なんというか・・・

「おい！今日から新学期なのに初日から遅刻はできねえ！早く行くぞ！」

みんなを急がせる松人君、彼らはもう三年生、今年で最後の中学生です。

それに今日は4月の始業式、初日から遅刻しそうだなんて・・・ヘタレにも程があります。

鑄鶴君は登校も大変なのです・・・

「鑄鶴！岡崎に殺されなくなったら死ぬ気で走れ！」

「ええ！？死ぬの！？それって教員のすることじゃないよ！？？」

「速く・・・走れ・・・！」

「私が遅刻する訳にはいかん！鑄鶴お前も付き合え！」

「えっ！？待ってー！」

朝そして登校・・・幼なじみ、実に羨ましい！

そして四人は学校に急ぎ走り出しました。

第2話：魔王の登校（後書き）

第二話！どうだったでしょうか！まだまだ未熟者ですしページ数も少ないです

しかし！まだまだ頑張っていきたいと思います！感想お待ちしております！

n

第3話：魔王、進級・三年生（前書き）

朝から遅刻ダツシユの魔王兼主人公の望月鑄鶴そんな彼は進級・・・
したのだが・・・

第3話：魔王、進級・三年生

「いやあゝ間に合った、間に合ったゝ．．．あゝ疲れる．．．」

汗を拭く松人君、実に男前です。

「ふっ．．．体力がもたな．．．い．．．!」

そんな後ろで、情けなく死にかけているのは影太君、実に滑稽ですね♪

「どうした！私は息なんかあがらんぞ！？お前等男だろ！しつかりしろ！」

男共三人が走り疲れてる中ポニーテール幼なじみの歩さん彼女は走りすぎたせいか服がシワシワです。

鑄鶴君ですか？歩さんの隣で立て膝で立ちつくしています♪

「得に鑄鶴！お前はなんだ！だらしない！」

「だっ．．．だつて．．．歩がはっ．．．速いんだよ．．．」

そんな言い訳をする鑄鶴君を見て歩さんはガツクリと肩を落としています．．．

まあ．．．うちの主人公はヘタレですしねゝ．．．

「体育館に行くぞ！早く！」

男三人を急がせる歩さん、男三人が情けない．．．

そんなこんなで体育館で始業式、まあ三人汗だくですけど．．．始業式をしている間4人が通ってる学校の説明をしましょう♪

別に暇って訳じゃないんですよ・・・？ホントですよ？

そんな4人が通うこの学校、

「市立陽明学園」

ちなみにこの学校大学部・高等部・中等部があります。

そしてその敷地面積は愛知県の7分の4が陽明学園でその規模名声共に全国一位、

そしてなによりその中の選択科の多さです。

この陽明学園には、魔法科・科学科・機械科・普通科・銃器科・魔王科などがあり、その中でも魔王科は一般生徒は立ち寄れません、危険ですからね♪

でも影人メモによると魔王科は女の子パラダイスだそうです！

さすがエロフェツシヨナル！

そしてなんだかんだで始業式は終わり。

「ほおゝ今年は4人同じクラスかゝ♪楽しみだなゝ♪」

「最後の一年で4人一緒かゝ」

「このクラス・・・良い・・・！」

「どうなる事やら・・・」

うきうきしてるバカ三人とああどうしよう・・・という感じのポニテールが1人、

はてさていったいどうなる事やら・・・

エロフェッショナル俳句

ミンスカは、男のロマンの、第一線！

影太

第3話：魔王、進級・三年生（後書き）

第三話・・・いかがだったでしょうか！まだ三話目もっとバリバリ書きたいです！

エロフェッショナル影太俳句・・・もしかしたらまたやるかもしれません！

ではまた四話で～

第4話：魔王と遅刻して来たスケバン、荒神さん（前書き）

赤神君の彼女？が登場！そしてホームルームからいきなり遅刻者が！？そこに現れたのは土村君と縁の深いスケバンさんでした。

第4話：魔王と遅刻して来たスケバン、荒神さん

四人が始業式を終え帰ってきましたすると・・・

「桧人」遅れそうだったんだって？本当に馬鹿だよなぁ」

「はぁ！？仕方ねえだろ！俺は忙しいんだ！ほら！てめえは6組だろ！ほら行った行った！」

「今年は桧人と別があゝ寂しいな・・・」

ショートヘアーのあの子は6組の鈴村詠歌さんとしてもスポーティな女の子、桧人君の幼なじみで、

付き合いは幼稚園からです。いやぁ・・・羨ましいいったらありやしない・・・

そんな桧人君の彼女の鈴村さんは1組にとって強敵です。なにせスポーツ万能なのですから！

「今年はお前無しで球技大会、体育大会、優勝してやるぜ！」

「へえ」じゃあ楽しみに待つてるよ」

笑いながら6組に戻る鈴村さん、実にたのしみという感じです。

そんな後ろ姿を見ている桧人君、ぶっ倒すぞ！というオーラがバンバンでています。

四人はクラスに入り席に着くと・・・？

そして先生がきました。

「席に着いてください！ええ」コホン！今日からこの三年一組の

担任になります！白鳥要です！担任１年目ですが、どうぞよろしくね」

土村君の眼光が半端じゃありません！影太ＡＩがバリバリ働いています！

「あら？席が一つ空いてますね？荒神麗花さんですか？」

土村君が尋常じゃないくらい焦っています。
どうしたんでしょうか？

その時、バン！と音を立てて教室の扉が開きました。

「荒神だ・・・」

そこには見るからに赤神君と同じ雰囲気のスケバン少女が仁王立ちしながらどーんと構えています。
遅刻した人とは思えないぐらいのオラオラオーラ的なものが出ています・・・

「席は・・・土村君の隣ですね。」

あまりにもものオーラで先生もびびっちゃってます・・・
土村君の顔色が真っ青です。お腹でも痛いのでしょうか？

「土村あまた同じクラスだな！赤神に望月、歩までいんじゃないか
今年も宜しくな！」

「疫病神・・・」

「ああ！？今なんつった！！」

土村君スケバン相手に「疫病神・・・」って・・・流石エロフェツシヨナル覚悟があります。

このスケバンさんは荒神麗花さん・・・はい、そうです。彼女は不良です。でも本当はピュアな女の子なんです。本当ですよ？

そんなこんなで先生があたふたしている中、土村君は荒神さんに胸ぐら捕まれています・・・お気の毒に、

そんなこんなでホームルームも終わり荒神さんを加えて5人しか居ない教室で何が始まる事やら・・・

第4話：魔王と遅刻して来たスケバン、荒神さん（後書き）

優しい魔王の疲れる日々、第4話いかがだったでしょうか。縁の深
いと書きましたがまたそれは番外編？で、感想などお願いします・
・！来週テストなので、来週は書けるかどうか・・

第5話：魔王と4人の作戦会議（前書き）

ついに主要メンバーがそろった？球技大会までもう少し、三年生初めての学年競技しかしそれは、始業式から10日後・・・そこで赤神くあかがみ>君からの作戦が・・・？

第5話：魔王と4人の作戦会議

「さあて・・・あと十日で球技大会か・・・はええな、今年は確か・・・」

「野球・・・」

話始めた赤神君に土村君が割り込みます。

「そうか、野球か・・・最低9人は必要だな・・・俺達が狙うのは優勝だ！その為に作戦をたてた！」

「桧人！まさルール違グボア！！！！」

赤神君に殴り跳ばされる鵜飼くいつる>君、4 / 5 Mは飛びましたね、さすが不良！

「これはルール違反じゃない！正当な作戦だ！ほら、ルールブックを見てみる。」

自信満々とルールブックをみんなに見せる赤神君、どんな事が書いてあるのでしょうか？

「第三学年普通科球技大会について」

- ・競技は野球です。
- ・大会は5日間行われます。一日一試合、計五回戦となります。
- ・各クラス9人を男女問わず選出して下さい。
- ・機材への細工、改造等は決して行わないでください。

・バット、ボール、クラブ、ユニフォームは学校側が当日用意させていただきます。

・金属物検査などを試合前に行わせていただきます。

・乱闘等は両チーム出場停止となりますのでご了承下さい。

注意：バッティンググローブは希望者のみ貸し出しします。

「だ、そうだ。」

「んで？だからどうしたんだ？」

荒神くあらがみくさんが聞き返します。

「お前等、気づかないのか？このルールブックの抜け穴に。」

「抜け穴？そんなものあるのか？」

三河さんくみかわくさんは頭に？を浮かべています。

「む・・・！飲み物・・・！」

土村君がハッ！とした顔をします。

「そうだ、飲み物だ！さすがエロフェッショナル！」

「エロは余計・・・」

ポカーンとしている三人、思いついてウキウキしている一人、ブツブツ言ってるエロフェッショナル。

「お前等、まだ分からないのか？飲み物に細工するのさ！」

「えっ？でも細工はダメじゃ・・・」

あたふたしている鑄鶴君、それを見てため息をつく赤神君、仕方ねえな〜と言わんばかりのため息です。

「飲み物は機材じゃねえ！個人またはクラスで用意する物だ！それに細工しようと改造しようと！俺達の自由だろ！！！！！！」
スポーツドリンク入れようが炭酸飲料入れようが自己責任！つまりこっちの自由ってこった！！」

卑怯です！下劣です！最低です！彼女持ちとは思えない悪業っぷりです。

土村君もコクコクとうなずきます。

「さあお前等耳を貸せ！これから10日間俺含めお前等4人には任務がある！それを今から伝える、各自耳を貸せ。」

なにやら色々な作戦を思いついた赤神君、さた10日後の球技大会にむけてなにをするのか・・・

「さあ！後はクラスの連中にも作戦を言い渡す！実行は今日からか明日からでも良い物もある。それじゃあ各自解散！」

それぞれ五人が任務を言い渡され帰宅していきます。

土村君は荒神さんと帰るらしいです。土村君はとてつもなく嫌がっていますけど、

「ほら！影太くえいた>！行くぞ！」

力強く土村君を連れて行く荒神さん、
そして、我らが主人公、鑄鶴君は三河さんと帰るそうです♪青春で
すね♪

「十日後の前にもきちんと授業はあるからな！・・・その・・・
一緒に帰らないか・・・？」

「一緒に？別にいいけど？たまには二人で帰るのもいいしね。」

別につて！色んな意味で乙女心を理解してほしいと思う、三河さん
でした♪

ウチの主人公は鈍感だな♪と思う空の声でした♪

第5話：魔王と4人の作戦会議（後書き）

第5話いかがだったでしょうか？感想いただけたら感激で泣きます

W
W

それではまた次回の六話で～

第6話：魔王と球技大会（前書き）

早くも10日間がすぎ、球技大会に・・・果たして赤神君の策は成功するのか！

そして我らが主人公、望月くもちづき君の活躍はあるのか！

第6話：魔王と球技大会

「さあて！お前等！これから俺達は、球技大会という学園の競技に参加する！そこでだ！まずはこの球技大会に出る勇気ある9人を紹介する！」

教卓で大声を出しながら張り切る赤神くあかがみく君、まさにやるぞー！って感じです。

そしてグラウンドに普通科中等部3年生が集まります。
開会式、普通科校長の長ったらしく挨拶を聞き終え

「エロフェッショナル！この大会の優勝かビリかはお前に掛かっている。絶対にしくじるなよ！」

「任せろ・・・後エロでは無くプロ・・・」

ボソツと呟く影太君くえいたく君、もうどっちでも良いと思います
がねえ？

そしてだい一回戦、

2組対4組

あら？どうしたんでしょう、どちらも出てきません、

「なっ！腹が！腹があ！」

「しっしぬ！死ぬううううう！」

あららら・・・どうやら下剤が何か入っていたそうですね・・・
2組も4組も男子生徒だけがのたうちまわっています。

「女子に手を出すほど・・・落ちちゃいない・・・」

あつ下剤を入れた犯人はエロフェツシヨナルだったそうです」それを見ながらうんうんと頷く赤神君、

まさにゲスの極みです。こうして2組と4組は試合続行不可能となり、失格となりました。

この珍事で、一時中断という事になり、そして二回戦3組対5組になりました。

「おい！てめえ！どういう事だあ！？俺達の水筒に下剤入れやがつて！」

「はああ！？それはこっちの台詞だ！てめえらあ！」

あらあら・・・喧嘩が始まってしまいましたね・・・それにしてもあの赤神君の顔、悪の総大将のような恐ろしくゲスな顔です。奴に彼女など与えた神様が実に愚かに思えます。

「さすがだな、エロフェツシヨナル！最高の出来だ！さあ！後は6組を落とすだけだ！！！！！」

「このくらい・・・当然・・・」

フン、と鼻から息を出す影太君、そして3組と4組は乱闘退場ルーで失格残るは6組と1組となりました。そして6組にも作戦を決定したそうです。不戦勝で優勝しようだなんて、まさに最低ですね、この男はウジ虫イカです。そんなもう優勝はもらったという感じで高笑いしてる赤神君、
すると・・・？

「へえ」 〃 桧人 〃 作戦は練ったんだ」でも・・・私達には通用しないよ？」

クラス用の水筒の飲み物をドブに捨てる鈴村くすずむらゝさん、

「さすがだな、お前には通用しなかったか・・・詠歌くえいかゝ！全力できやがれ！」

早くも火花が散っている二人、一色即発な感じ です。

そしてお昼休み、1組と6組以外は競技が終了してます」一人のゲスによつて」

「さて・・・午後は全力で行くぞ！お前等！覚悟しろよ！」

「おう！」

こうして昼休みも終わり、ついに1組対6組！球技大会最終決戦です！

それでは1組のオーダー紹介しまゝす」

- 1番 セカンド 土村影太
- 2番 キャッチャー 赤神桧人
- 3番 サード 三河歩
- 4番 ショート 荒神麗花
- 5番 ピッチャー 望月鑄鶴
- 6番 ライト 福原修
- 7番 センター 青木直人
- 8番 ファースト 仲谷昇平
- 9番 レフト 白鳥要

「わっ私も参加するんですか！？教師が参加しても良いのでしょうか・・・」

「白鳥先生、別に教師が参加しちゃダメとか書いてねえだろ？それに先生にも作戦に参加してもらいたいしな。」

「はっ・・・はあ、まあ分かりました！私も頑張りますっ」

少し困る先生、可愛いです！あと三歳ぐらい若ければもっと可愛いですよ！はい！

「さて！プレイボールだ！」

「絵人！負けないわよ！」

そして初回、6組の先攻、ピッチャー望月！投げました！

キイイイイイイイイイン！

ホムランっ！って！どうしたんですか望月君！？ホームラン打たれちゃいましたよ！？

「絵人！こういう事だよ！ホームランだよ！？ちゃんとサインしろよバカ！」

「そっちこそ！ちゃんとコントロールしやがれ！このどアホがああああああああ！」

あらあら息が合ってなくて喧嘩が始まっちゃいましたねっ

「まったく！こんな事で喧嘩してる場合か！ほら！元野球少年さつさと抑えるぞ！」

さすが赤神君、鑄鶴君をなだめています。

そして次のバッター、次はど真ん中のカープの指示、鑄鶴君！振りかぶってなげました！

カキイイイイイイイイイイイイイン！

「バットを寄越せえええええええええええ！こいつを殴ってから試合再開だ！」

「それはこっちの台詞だあ！この能無しキャッチャーがあああああ！」

またホームランそして喧嘩、この二人は・・・バカの塊ですねえ・・・

「能無しキャッチャー・・・次から本気で投げるよ？いい？」

「あつたりめえだろ！ばつちこいや！」

バンバンとミットを叩く赤神君、鑄鶴君も顔が本気になります。

そして場が緊張に包まれ、そして・・・鑄鶴君の表情が変わりました。

さあ！ここからが反撃です！

以上、空の声でした！

第6話：魔王と球技大会（後書き）

第6話如何だったでしょうか？感想いただけたら発狂します！7話はきちんとした試合をお送りしますのでよろしく願います！

第7話：魔王と反撃開始！（前書き）

とってもゲスな作戦が成功したはいいが初回からいきなり2失点の大ピンチそこでついに、魔王兼主人公、望月鑄鶴くもちづきいずる>の本領発揮！？

第7話：魔王と反撃開始！

「鑄鶴くいづる>俺たちは勝つ！めいっばいこい！俺が全部捕ってやる！バックもやる気を出してくれている！頑張れよ、元陽明学園小等部野球部のエースさんよ。さあ！お前等あ！しまっていくぞおらあ！」

やる気満々の赤神くあかがみ>君、その闘志が1組サインにも伝わります。

鑄鶴君は自分の胸をトントンと叩きます。

「抑える・・・抑える・・・！」

「なんなのかしら・・・望月君さっきと雰囲気がまったく違う」

思わずびびってしまう赤神君の彼女、鈴村くすずむら>さん、そりやそうです。今、鑄鶴君はとてつもなくオーラの的なものを出しているのですから。

そんな鑄鶴君の第1球目、ズバンツ！と音をたてるミット、赤神君が目を見開いて驚いています。

「いつ！今の何？！？速すぎるんだけど！」

慌てる鈴村さんそんな鈴村さんが気にしている球速、みんながおずおずとバックスクリーンを見人中、
142？と表示されていました。学校にバックスクリーンって・・・
この学校金持ち過ぎですよ〜・・・学園長の顔が見てみたい。

「私だつて負ける訳にはいかないのよ！」

燃え上がる鈴村さん、スポコン小説じゃないんですけどね・・・
そして・・・

第2球目！横に歪むように曲がるスライダー、かんなの女の子が打てるはずもなく・・・

鈴村さんはあっけなく三振、悔しがる鈴村さんだからスポコンじゃありませんから！

そしてついに初めて！いややっとな！1組の攻撃！一番土村くつちむら君！

「エロフェツシヨナル！頼んだぞ！」

「エロは余計・・・」

相変わらずの返答、そして鈴村さんの第1球、土村君バントの構え！

「えっ？いきなり！？」

バットに当たりボテボテと転がる球、鈴裏さんが急いで投げるもさすが我らがエロブリティッシュです！そして2番赤神君、もちろんホームラン狙いしかしその鈴村さんの赤神君に対する第1球、

「盗塁だー！キャッチャー！」

土村君の盗塁を阻止しようとしたキャッチャー、しかしそこにはボールは無く、バックフェンスをボールが直撃していました。そして土村君がホームイン、赤神君は二塁で止まりました。

6組ー1組

「じゃあ！見たか詠歌くえいか！お前のなまくら球なんか屁でもねえぜ！」

余裕こきまくりの赤神君、すると・・・？

「誰の球がなまくらだつて・・・？桧人くかいと・・・人をバカにするのもいい加減にしなさい・・・」

暗黒のオーラのものをまき散らす鈴村さん、なんかもうヤンデレ末期の様な風貌です。

そして3番バッター三河くみかわさん、リードする赤神君、その時！ビュン！と音をたててボールがサード方向に、

「まつ・・・まじかよ！？」

牽制でまさかまさかの赤神君がアウト、相変わらずヤンデレ顔の鈴村さん！怖いです！怖すぎます！

構える三河さん、そして第1球、ビュン！と音がたちます。一応三河さんも女の子打てるはずがありません。そしてバックスクリーンを見る1組・6組の皆さんバックスクリーンには

155？

という数字が表記されていました。中学生で投げられる球ではありません、もちろん打つ事も難しいです。ヤンデレ状態って恐ろしいですよ・・・

そして4番荒神くあらがみさん、そんな不良少女でも打てる筈もなく三振に終わってしまいました。

そしてここからは両チームエース？の投げ合いです。
両チーム8回まで何も起こらず鑄鶴君と鈴村さんが三振ショーとい
う試合展開になり現在二人の成績はというと、

望月鑄鶴

鈴村詠歌

三振15個

三振23個

被安打4本

被安打2本

四死球0

四死球0

失点2

失点1

自責点2

自責点1

投球数98

投球数104球

そしてついに9回表最後の6組の攻撃はというと圧巻の鑄鶴君が三
者連続三振にとり9回裏になりました。まだヤンデレ状態の鈴村さ
ん、そして先頭バッターは赤神君、そこで土村君があるボタンを押
しました。すると・・・？

「詠歌！許してくれ！俺はこんな卑怯な真似はしたくなかったんだ
！俺はどうしても優勝しなければならぬ！詠歌、頼む！勝たせて
くれ！優勝したら・・・俺はお前を嫁にするつもりだ！」

「は・・・？」

一番驚いてるのは赤神君そりやそうですよ。自分がアホな事言っ
てるんですから、

それを一番聞いていたのは・・・

「そつだったの・・・？桧人、ホントう？」

上目使い+ものすごい至近距離で赤神君を見つめる鈴村さん、それはまるで子犬のような瞳です。

「うつ・・・ちがつ・・・」

ゴゴゴゴゴゴ・・・というオーラの出来そうな鈴村さんを見て赤神君はというと？

「そうだ分かったか？なら早くベンチに戻れ後で迎えに行くから（棒読み）」

「うん♪待ってるね♪」

うわぁ・・・この男最低ですね！最低すぎます！騙される鈴村さんもそうですがこの男最低です！

そして6組はスローボールしか投げられない小が登板その第1球！

「ちくしょおおおおおおおおおおおお！！！！！！」

ギイイン！と音の鳴ったバットから放たれた特大ホームラン、まあ今までの悪行の報いですね。

涙を流しながらダイヤモンドを走る赤神君♪そんなに結婚が嬉しかったんですかね♪

そして土村君が塁に出て、ヒロイン？二人は三振、いいところを跳ばされた主人公が最後にホームラン

という事はなく、荒神さんがホームランを打ってしまいサヨナラ勝ちを収め見事1組は優勝しました♪

一人を除く1組メンバーは歓喜に沸きました・・・

しかし鑄鶴君はその後、何が起こるかも知らず
仲間達と喜びを分かち合うのでした・・・

第7話：魔王と反撃開始！（後書き）

さあ！球技大会！見事にグダグダですが完結しました！だい8話は現在考え中です！これからもガンバっていきますので！応援していただければいいかなと思います

第8話：魔王と謎の魔王科生徒（前書き）

祝！1組球技大会優勝！打ち上げなども終わり魔王兼主人公、望月
鑄鶴君<もちづきいづる>は、クラスメイトで幼なじみも三河歩<
みかわあゆみ>さんと仲良く帰る所です。しかし二人が家まで着き
かけた時、事件は起こったのです。

第8話：魔王と謎の魔王科生徒

「今日は疲れたな、ほら」

自動販売機で飲み物を二本買い鑄鶴君に一本ジュースを投げ渡す三河さん

「あつありがと、珍しいね歩が飲み物奢ってくれるなんて・・・」

「私がお前に物を奢ってはいけないのか!？」

波瀾万丈の球技大会が終わり二人で帰る三河さんと鑄鶴君、そんなことよりも！

鑄鶴君！素直に受け取りましょ！相変わらず羨ましい。

「今日はお前のおかげで勝てたようなものだ。よっ・・・よくやったな・・・」

「歩、ありがと♪また明日は学校かいや♪やっと褒められて嬉しいよ」

「そっ！そうか！わっ！私に褒められて嬉しいか！」

あまりの恥ずかしさに顔が真っ赤になる三河さん青春ですね♪
もう家の近くまで来てしまいました。しかしまだ真っ赤なお顔の三河さん家まで後5m

という所で鑄鶴君が何かに気がつきました白いマントを羽織った人が望月家前に立っていました。

「ええつと．．．家になにか用かな．．．？良かったら家に入れるけど．．．」

「……結様に会いに来た……」

「結姉？今学校でさまた明日か帰ってくるまでまつ……！」

鑄鶴君の腹にいきなり鋭い蹴りが食い込む、そしてその白マントが重い口を開いた

「その方の名を気安く呼ぶな．．．弟というだけの存在で．．．」

「歩……！家に入れ！早く！」

「**铸鹤**！」

「早く！入れ！」

怖々と家に入る三河さん怯えきつた目をしています。 鑄鶴君は臨戦体勢です。

「お前の存在が我らが將軍に迷惑をかける．．．お前には死んでもらわなくてわな．．．お前が將軍の邪魔になり．．．陽明を滅ぼすきっかけとなる前に．．．」

「じゃあ……君は結くむすび＞姉のなんなんだ……」

「私はあの人の側近であり部下だ・・・」

「君だってその程度じゃないか！それで結姉を俺から離そうとするんだ！」

「お前は將軍様にとって邪魔な上、迷惑だ他人にもお前の周りの人間も……今までに無かったか？お前のせいで死んだり、傷ついたりした人間が……」

「黙れ……」

「そしてお前が殺したようなものだ。なあ？ 魔王」

「僕は魔王じゃない……その口を塞ぎやがれ……」

声が冷たく小さくなる。

「お前は魔王さ、左胸を見てみる．．．刻印があるではないかそれとも無いとしらを切るのか？」

それとも自分を魔王と認めるのか？」

「その口を塞ぎやがれええええええええええつ！」

叫び声を上げ殴りかかる。しかし白マントはそれを何も無かったかの様にヒラリとかわす。

「なぜ怒る？ 事実ではないか！ お前が周りを苦しめ！ 悩ませ！ 終いには殺していく！」

それが魔王だ！それがお前だ望月鑄鶴！」

「僕は魔王なんかじゃない！僕はただの人間だ！望月鑄鶴だあ！」

「その考えが周りを終いへと導く！お前が消えゆけば周りは幸福になるのだ！」

ドゴツ！つと望月鑄鶴の鳩尾に強くしなやかな右腕が入る。蹲る鑄鶴君を尻目に白マントは言う

「自分を魔王と認めたくない・・・なんという傲慢そして弱さ、自覚の無さ・・・さあ・・・これでお前は死ねる大丈夫だ家族には留学にでも行つたとも言っておく・・・」

大きな剣を懷から抜き出す。その時・・・

「なぜだ・・・なぜ立つ！魔王とはいえ覚醒無しに！普通化の人間では普通耐えられん程の打撃を打ち込んだ筈だ！そなのになぜ！」

倒した筈の男がそこに・・・確実に倒した感触があつた。それなのに男は立っている。

その上半身には左胸にある筈の刻印を漂わせて

「俺は・・・魔王じゃない・・・」

「認める！それが刻印だ！お前は魔王だ！」

その時、右手から黒い閃光が白いマントへと飛び襲う、

「暗黒魔法だと・・・！？魔法科ではないはず！」

この男はおかしいそう思い恐怖したその時、男は倒れた。そこには彼の姉の結が居た。

「命令違反とは・・・随分とでかくなつたな」

「將軍！もっ申し訳ございませんっ・・・！」

「謝る位ならはじめからこの様な事をするな・・・分かったか・・・もう今日は寮に帰れ」

「かしこまりました・・・申し訳ございません・・・」

トボトボと帰っていく白マント、鑄鶴君を抱き抱え、結さんは家に入りました。

「右手をかなり酷く打撲してるね・・・愛弟をこれ程傷つけるとは・・・」

鑄鶴君の担当をしている望月家の三女・穂詰くほつみくさんとともに弟思いのいいお姉さんです。

一番そわそわしているのは次女の安奈くあんなくさんそわそわしすぎです。

「うつ・・・いてて・・・うつ・・・家か・・・」

「おお！鑄鶴！起きたか・・・良かった・・・」

「僕は・・・あっ！夕飯の支度しなきゃ！」

「お兄ちゃん神奈くかなくがやっておいたよ」

鑄鶴君の代わりに夕飯を作ってくれたのは八女の神奈ちゃんです。そして今洗濯場から誰かがでてきました。

「おっ……！お兄ちゃん！ゆりっ！ゆりが洗濯したいたよっ！ぜえぜえ……」

猛烈な速さで洗濯を終了させて息がただ漏れの子は七女のゆりさんです。

「おい……大丈夫か……虐められたか……？」

顔に似合わず長女の恐子さん、意外と心配性なんですよ？ほんっと人は見かけによりませんねえ……

こんな優しい姉妹方に囲まれてうらやまし……じゃなかった！幸せそうですねっほんっと羨ましい……

しかしあの白マントそして魔王科の謎……いったいなんなのでしようか……

以上空の声でしたっ♪

第8話：魔王と謎の魔王科生徒（後書き）

今回第8話！いかがだったでしょうか！少しシリアルさというかバトルを加えてみました！感想など頂けたらうれしいです！9話はいつになるだろう・・・

第9話：魔王悩むそして・・・（前書き）

昨日の魔王科の白マントの闘いで傷を負った鏑鶴くいつる>君、それでも学校に行きます。しかし彼の悩みは尽きません。

第9話：魔王悩むそして・・・

「僕は魔王なんかじゃない・・・僕は・・・」

昨日の事が忘れられないのでしょうか、鑄鶴君は悩んでいます。

自分の情けなさに苛立ち始める鑄鶴君、なんといえない負の感情が抑えられません・・・

「なぜ怒る？事実ではないか！お前が周りを苦しめ！悩ませ！終いには殺していく！」

それが魔王だ！それがお前だ望月鑄鶴！」

記憶が鮮明に醜く蘇る

「僕は・・・居ない方がいいのかな・・・僕が居るとみんなが死んでしまう・・・くっ・・・うつ・・・」

あまりの悲しさに泣いてしまう・・・ただ自分の非力・情けなさではない。ただ自分が魔王というだけ・・・それだけで嗚咽、涙、感情が溢れ出してくる。

「自分を魔王じゃないって言えばいいのよ」そうすればあの人達も言わなくなるって」

望月家三女の穂詰くほつみ>さんが鑄鶴君にフォローを入れます。そのフォローに鑄鶴君は、

「うるさいよ・・・穂詰姉に何が分かるんだよ！僕に関わらないで

くれよ！この飲んだくれ！」

あらら・・・鑄鶴君、そういうことは言っちゃ駄目でしょう・・・すると・・・穂詰さんはギュッと鑄鶴君を抱きしめ・・・

「私達は家族でしょ・・・とくに鑄鶴は長男なんだから！こんな事で泣いたりしてどうする！娘に死ねって言われて泣く私たちの父さんより酷いわよ！？」

これも姉の愛情というやつなんですかね・・・望月父はどんな人なのでしょうか・・・少なくともガラスのハートですね。

「でも・・・僕が居たら・・・みんな死ぬかもしれない・・・」

「死なないわよ♪死ぬわけじゃない！私たちの母さんを思い出してみなさい！」

表情が変わる鑄鶴君、コクコクと頷きました。

「死ぬわけないよ・・・ね♪」

「はい！そうと決まったら朝ご飯作りなさい！みんなお腹すいてんだから！」

「そうだね♪よし！朝ご飯つくるか！」

やる気の入る鑄鶴君、微笑ましいです♪

彼の朝は大変です。それでも彼は今の生活が大好きです。彼が彼らしく生き暮らしているのですから、

そして朝の準備みんなの出迎えも終わり鑄鶴君も学校に行きます。

「鑄鶴く！おせえぞく」

「遅い・・・！写真5枚も撮れた・・・」

「鑄鶴・・・すまなかった・・・私は・・・」

「いいんだよ♪気にしないで、歩がした事は正解だよだから、ね♪
気にしないで。」

「何かあったのかくwwお二人さんww」

「怪しい・・・」

「なっ！何もないから！うん！早く行こう！遅刻しかけるよ！？」

「そうだな♪行くか！」

今日も元気で四人が学校に走って行きます。まさに青春って感じですね♪こうして魔王兼主人公の望月鑄鶴の一日がスタートするのです。

そのころ・・・陽明の普通科のある部屋では・・・

「魔王が普通科に居る？冗談でしょ？」

眼鏡をかけた男が口を開く

「会長、冗談ではありません、これをご覧ください。」

冷静沈着に秘書らしき女性が答える

そこには、昨日の家の前での鑄鶴君の姿が・・・

「いやいやいや！CGでしょ！CGだよ！絶対CG！」

「何回言つんですか・・・困った人ですね・・・」

「普通科に魔王が・・・困ったな・・・」

「どうしますか？」

「相談は無し！うん！魔王が普通科に居てもいいじゃないか！それに僕も普通じゃないしね！」

「自信満々に言われても・・・」

「でも一度会ってみたいなあ・・・僕は圧倒的普通者だからね♪彼に敬遠はされないでしょ♪」

「はぁ・・・この駄眼鏡は・・・」

第9話：魔王悩むそして・・・（後書き）

第9話いかがだったでしょうか！そろそろ番外編などなど作っていきたいと思っています！感想等々お待ちしております！

第10話：魔王と陽明学園普通科生徒会長（前書き）

ついに！主人公兼魔王の望月鑄鶴くもちづきいづるゝ君の通う陽明学園普通科のボス！いえ生徒会長が鑄鶴君に会いに来ました・・・はてさてなにが起こる事やら・・・

第10話：魔王と陽明学園普通科生徒会長

―普通科生徒会室―

「嫌だ！嫌だつたら！僕は会いに行かないよ！？絶対行かないしめんどくさい！会長命令で他の生徒に接触させてよ！」

椅子に居座つたまま離れない人が居ます。あの駄々こねながら暴れているのは我らが、陽明学園普通科

生徒会長 風間一平くかざまかずひらく君です。女つたらし眼鏡！オタク兼生徒会長と駄目駄目で残念な人です。

「あなたは会長でしょうが！少しは側近である私の身にもなつて下さいよ！誰が学園長にあなたの駄目っぷりを教えてあげてるんです！？学園長もガツカリされていましたよ！昔は良い子だったって」

「雛罌粟くひなげし！僕はね！？駄目を演出してるんだよ」普通に通に駄目な人間おぼふおおおおお！！！」

跳んでいく駄目会長それを蹴り飛ばし椅子から降ろしたこの方は、雛罌粟涼子くひなげしりようこくさん、眼鏡っ娘で普段はクールで売っています。駄眼鏡の側近で毎日苦労しているそうです。

「行ってくださいね・・・普通の事ですよ・・・？普通の！！！！！」

「分かった！行く！行くよ！行けば良いんでしょ！・・・・・・そんなに怒るから小じわとか出来かけてるんだよおい！」

「何ですか」誰のせいでそういう事気にしているか分かってますか

」

もう一辺言ってみるやオーラの出てる雛罌粟さん恐ろしく怖いです。そして昼放課普通科の皆さんの大移動が始まりました。

「会長、望月君が1人になった所をかつさらってください。」

「はいはい・・・ええーつと・・・へえーあれが魔王か・・・っ！？彼女と飯か！？リア充爆発しろ！」

なんという負け犬台詞でしょうか色んな意味で哀れです。鑄鶴君は三河くみかわ>さんと相変わらずリア充しています。うらやましかったらありやしない・・・

「いつ！鑄鶴！きつ！今日はべっ！弁当を作ってきてやったぞ！？感謝するがいい！」

照れ隠しが旨くいつてない三河さん、完璧に浮いちゃってます。

「ありがとね歩♪今日はお弁当自分のだけ作るの忘れちゃってさ・・・助かるよ・・・」

やったー！という感じの鑄鶴君幸せそうな顔をしています。よつぽどお腹が空いていたのでしょ、もう食べ始めちゃってます。

「いつ！鑄鶴！口をあっ！開ける！あっーあーん・・・あれ・・・？」

一瞬で自分の視界から鑄鶴君とお箸で持っていた卵焼きが消えてしまった事に動揺を隠せない三河さん、1人寂しくお弁当を口にしま

す。

そんな消えた卵焼きと鑄鶴君の行方は………駄眼鏡の隣に居ました。

「君が鑄鶴君？中等部の生徒にしては大きいね〜177cmぐらいかな？」

まじまじと鑄鶴君の観察をしだす風間さんちよっとキモイです。あ、言っちゃった。

「あなたは……？バッチで見たら普通科の方ですけど……」

おどおどする鑄鶴君さすがの鑄鶴君も動揺を隠せない様子。

「よくぞ聞いてくれた！僕はこの陽明学園普通科高等部生徒会長！風間一平である！」

決まった……という感じの駄眼鏡さん、鑄鶴君の口がポカーンと開いています。

「ええつと……まず僕が質問するから答えてね？嫌なのがあつたら答えなくてもいいから」

「えっ？あっはい」

「1、君は魔王ですか？」

「魔王じゃないですし魔王になる気なんかさらさらありません」

「2、体育大会には出たい？」

「出たいです！是非とも！普通科に貢献したいです！」

「最後！3！あの女の子は彼女！？」

「あれはただの幼なじみです！なんですか！？」

あたふたする鑄鶴君若干顔が赤くなっています。

「うん♪それだけこの3つが聞きたかった。今日はこれでおいとまするよ♪まったね♪」

帰っていく駄眼鏡さん、ポカーンとする鑄鶴君、なぜですかっ？普通科の人間、会長といっても空に浮くのですから、そして

―生徒会室―

「ですからそういう事と・・・まだ魔王でないという事は、覚醒無し一般人という事ですね？はい分かりました了解です。」

駄眼鏡からの通信と切る雛罌粟さんまだやる事は残っています。今日も大変です。

・
・

「まだ、まだ魔王でないという事はあっている・・・体育大会で何か起こるかもしれませんね・・・」

繭をしかめる雛罌粟さん、そんなに睨むと小じわが小じわがああああああああ！

そんな事はさておき、怒った三河さんをなんとか授業中にでも上機嫌にさせようとする鑄鶴君・・・

見苦しいですね・・・

そして放課後、陽明学園のどこかで会議が開かれました。

第10話：魔王と陽明学園普通科生徒会長（後書き）

第10話いかがだったでしょうか！次回は各科の会長さんが出る！
かもしれません！ではまた次回で感想など頂けたら・・・

発狂します！

第11話：居残りさせられた魔王と陽明学園密会・・・？（前書き）

授業も終わり帰るぞ〜ムードだった我らが主人公、望月鑄鶴くもちづきいづるく君しかし、クラスの担任の白鳥くしらとりく先生に教室に残されてしまいました。

その頃、陽明学園某所では、各科の会長達の密会が行われようとしていました。

第11話：居残りさせられた魔王と陽明学園密会・・・？

チャイムが鳴り今日の学校の授業が全て終わりました。もう帰るぞムードの皆さん、赤神くあかがみく君が鑄鶴君と土村くつちむらく君と一緒に帰ろうと誘おうと声をかけます。

「鑄鶴く影太く帰るぞく？」

「・・・今日は荒神くあらがみくに誘われてしまった・・・死ぬかもしれない・・・」

「ごめん桧人くかいとく！先生に教室に残れて言われちゃってさく・・・ごめん！」

「二人とも無理か、一人で帰るとするか」

二人の用事などを聞きその場を立ち去ろうとする赤神君、その時！6組から猛スピード走ってくる何かを目にしました。するとその何かは赤神君の前に止まり言葉を発しました。

「桧人く一緒に帰ろく」

そこに居たのは6組の赤神君の彼女さんの鈴村くすずむらくさんが居ました。

「何でお前と帰らなきゃいけないんだよ！お前等！？違う！これはだな！？」

焦る赤神君一部始終を皆さんに見られてしまいました。

「赤神いゝ……てめえゝ……リア充しやがつてえゝ……」

1組の非リア充男軍団＋鏑鶴君と土村君が赤神君を殺気で満ちた目で見えています。すると詠歌さんはそんな皆さんの前で……

「桧人……ぎゅうつてして……」

爆弾を投下しました。確実に核弾頭の域を超えた爆弾が落下しました。それを見て刃物やらカッターやらほうきなどを構える非リア充諸君、

「詠歌くえいか>！俺から離れろ！頼む！離れてくれ！離れてくださいっ！」

「桧人お願い……あの日の続き……して……」

まるで子犬の様な甘えた声を出す鈴村さん、この現場を見て黙ってる1組の男は誰もいません。

「赤神を殺せええええええっ！骨、いや！細胞も残すな！とにかく殺す事だけを考える！」

「ちいいいいいっ！どいつもこいつも！俺は無実だ！何もしてない！」

猛反論する赤神君、そこに鈴村さん横槍が飛んできました。

「桧人が……したいって言ったから……」

猛ダツシュ！1人のリア充が今猛ダツシュしました。

「お前等あつ！あの野郎を許すなあああ！全軍突撃い！」

「桧人はやつぱ面白いや♪望月君、居残りガンバってね♪」

ニコツと笑う鈴村さん、嘘だったみたいです。

鈴村さんが桧人君を追い走り去っていきました。そうして今、教室には鑄鶴君と土村君しか居なくなっていました。

「影太？帰るぞ？望月は居残りか？ご苦労なこつた・・・まあがんばれ！行くぞ影太！」

スケバン少女の荒神さん、掃除のおさぼりから帰って来ました。影太くんは鞆を持って、

「・・・鑄鶴・・・頑張れ・・・！」

と、友達らしい事を言ってくれました。

なにかと心配してくれている二人のそんな優しさに鑄鶴君もこれからどんな居残りが待っているようにとも乗り越えていけそう！という雰囲気です。

すると、担任の白鳥先生が入ってきました。相変わらずの白衣です！ナースっぱいです！一応理科の先生ですからね！

「望月君・・・先生はほんとの事を言っしてほしいんだけど・・・言いたくなかったら答えなくていいからね・・・？」

重苦しく会話をはじめる白鳥先生、鑄鶴君の心の中に緊張が生まれます。

「何ですか・・・？基本的に答えられる事は答えますけど・・・」

「あのね・・・先生は望月君の事を大好きよ？もっ！勿論先生としてね！？球技大会も真面目にやってくれたし、掃除やゴミ捨てとかもキチンとしてるし・・・でもね・・・魔王科の子と喧嘩とかしてない・・・？」

おずおずと聞く先生、しかし鑄鶴君はキツパリと・・・

「あつ・・・ええつと・・・あれは喧嘩ですかね・・・？はは・・・」

「言えませんでした。」

「でも喧嘩なんかしていません！これは本当です！」

キツパリと言う鑄鶴君、その答に先生は涙ぐみながら・・・

「よかったあ・・・先生心配してたの・・・そういう噂をきいたから・・・よかったあ・・・」

ブハア！先生！上着はだけてる！言わなきゃ！言わなきゃ！

思春期ですね・・・先生はまだ22歳なのでピチピチなボディーが目の前にあります。鑄鶴君はK.O寸前です。

「先生まだお仕事あるからじゃあまた明日、さようなら」

「はあ、やっと帰れる・・・」

ため息をつく鑄鶴君！彼の一日はまだ長いのです！

――陽明学園某所――

「さて・・・そろそろはじめる？」

「風間くかざまくが来てないようだが？」

風間さんは前にでた普通科の駄眼鏡会長です。

「では私が変わりにやろう・・・出席をとるぞ・・・機械科、金城沙耶くかねしろさやく」

「はいであります！」

「魔法科、虹野瀬綾佳くにじのせよりかく」

「ここに居るじゃない・・・」

「銃器科、月野蛍くつきのほたるく」

「なんだい？」

「科学科、朝倉藍子くあさくらあいこく」

「はあゝいゝ」

「やっときたか・・・普通科、風間一平くかざまかずひろく」

「いや」遅れてすみません」

「そして私、魔王科、望月結だ。それでは会議を始める」

ついに始まる会議しかしこの駄眼鏡・・・完璧に場違いです。こっ
して長いようで短い会議が始まったのです。

第11話：居残りさせられた魔王と陽明学園密会・・・？（後書き）

今回は会長集合会にしました次回は、会長達の会議の内容になると
思います。。多分・・・

第12話：魔王と体育大会会長陣会議（前書き）

やっと居残りが終わり家に帰れる我らが主人公、望月鑄鶴君、しかしその時陽明学園某所では体育大会の会議が行われ、そして・・・望月家についてあの人が！？

第12話：魔王と体育大会会長陣会議

「はあゝ・・・やつと終わった・・・先生に心配かけるんじゃないかなった・・・ふうゝ・・・」

やつと帰れるムードが出ている鑄鶴君、よほど疲れたんでしょう、普通の男の子なら、まあねえ？

そして家に向かう準備をして学校をあとにしました。

————陽明学園某所————

「で？会議とは何をするでありますか？我が輩には機械の整備と新兵器の開発があるのでありますか？」

眼鏡ロリの機械科会長、金城くかねしろくさんがそう言い放つすると、文句を言う人がもう1人。

「私も・・・研究があるんですけど・・・早急に終わってくださいと・・・嬉しいです」

白衣お嬢様の科学科会長の朝倉さんもめんどくさいと言わんばかりの態度です。

「まあ、体育大会の話だ。とにかく早めに終わるつもりだ」

魔王科代表の鑄鶴君のお姉さんの結くむすびくが周りをなだめます。するとあの駄眼鏡が・・・

「虹野瀬くにじのせくちは彼氏とか居るの？」

「あなたに答える義務が私にある？あなたみたいな間抜け野良に教える義務なんてこの世に存在しないわ、私にもやらなきゃいけない事が沢山あるのよ。山の様にね」

駄眼鏡を罵倒しつつ自分も帰りたい事を示す魔法科会長の虹野瀬さん、いや様でしょうか？

こんな駄目・・・じゃなかった！こんな素敵な会長達の上に立つ学園長はさぞ素晴らしいんでしょう！
多分いえ！きっとです！はい！

「とにかく・・・今年の体育大会は、各科対抗戦争にしよう」

「戦争・・・？」

各科の代表が魔王科代表に尋ねる。

「ああ、死なないがダメージや痛みは感じる、リアルでいいだろう、それにルールも今作った」

————各科対抗戦争ルール————

・魔王科は4人、機械科は6人、普通科は9人、魔法科・銃器科・科学科は5人までが参加人数とする。

・トーナメント戦となり二科ずつ闘い勝った方が二回戦に進み、二回戦が終わると決勝戦となる。ちなみに一回戦が終わった時点で人数の少ない科が優先的に決勝シードとなる

・敗北条件は全滅または敵大将を撃破されるかのみである

・大将は各科の会長がやる事

・核兵器、衛星兵器、禁忌魔法、超弩級帆船または戦艦の使用、毒物、殺傷能力のある薬などの使用を禁止する。

・対抗戦争は各科の教室、食堂、全ての場所で放映される

・戦闘場所は旧校舎のみ、旧校舎がなんらかの不祥事で破壊された場合大規模下層グラウンドを使うこと

「以上だ。異論はないな？よし！では解散！」

各自散り散りになる会長達各科はこの学校競技を本当に楽しみにしています。普通科の方々以外はですが・・・

――望月鑄鶴――

「もうすぐ家だ・・・なんか嫌な予感がするな・・・」

そんな事を呟く鑄鶴君、手帳の電話機能何気なく起動させましたすると・・・

「お兄ちゃん今どこ？」

「今？もうすぐ家だよ？」

電話をかけてきたのは望月家7女のゆりさんでした。

「お母さんが帰ってきたよ」早く帰ってこいだって」

「そっ！そうか！わかった！もうすぐ帰るって！っっ！伝えとい
て！」

「はい」

そうして電源を切る鑄鶴君、冷や汗が止まりません、まるでこの世
のは終わるのか！っていう顔してます。

「嘘だろ……？あの人……？」

ブルブル震える鑄鶴君、なんか大変な事が起きそうな予感です。

第12話：魔王と体育大会会長陣会議（後書き）

第12話如何だったでしょうか！最近お気に入り登録してくれたかた。ありがとうございます！前から登録していただいてる方！いつもありがとうございます！

ご感想、励ましの言葉等々頂けたらうれしいです！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1527x/>

優しい魔王の疲れる日々

2011年10月19日02時08分発行